

第10回 胎内市総合計画策定審議会 議事要旨

1. 日時

平成28年11月29日（火） 19：00～21：10

2. 場所

胎内市役所 5階501会議室

3. 出席者

【胎内市総合計画策定審議会委員】

中野友美委員、坂上タキ江委員、高橋三樹男委員、中原拓也委員、関谷浩史委員、高橋賢一委員、安城守英委員、威本悠希委員、久世秋絵委員

【事務局】

総合政策課長、総合政策課企画政策係長、係員、計画策定支援事業者

4. 議事内容

事務局より総合計画体系案と基本計画素案の内容を説明した後、施策について各委員から発言。主な発言内容は下記のとおり。

- 今後の課題に「女性の活躍」や「高齢者の雇用」という記述が、目指すまちの姿には「女性の就労」という記述があるが、施策の方に関連する内容が見当たらない。子育て支援の方には記載されている内容ではあるのだがこちらでも対応を検討して欲しい。
〔複数の施策に関連があるものについて、見せ方をどうするのか対応を考えたいと事務局回答〕
- 「求職者のニーズにあった就業形態」や「求職者のニーズにあった職場が増え」というのも難しいのではないかと感じる。市内にニーズにあったあらゆる職場があるという姿はあまり現実的ではなく、市外で働いて胎内市で住んでいるという形でも良いのではないかと感じる。
〔表現を再考したいと事務局回答〕
- 転勤が多い企業の社員の奥さん方は周りに知り合いがいない状況のため、「小さい子どもが集まる場に行かないと話し相手がない」という悩みがあるようだ。こうした場所をつくるのが重要だと思う。もう1点、高齢者の雇用に関連して、特に建築・機械関係等は一度退職した技術者が貢献できる分野だと思うので、その辺りを施策として盛り込んでどうか。
〔表現等を検討したいと事務局回答〕
- 「自然環境」「生活環境」「地球温暖化」「生活空間」という並びに違和感がある。「自然環境」「地球温暖化」、そして自然災害を扱う「防災・減災」という順番の方が分かりやすいのではないかと感じる。
〔再考を検討したいと事務局回答〕
- 今回の総合計画は行政コストのスリム化が大きなテーマであり、なるべく重複する部分をなくしていかないと第1次の計画と同じになってしまう恐れがある。全体の構造や施策ごとの役割分担がもう少し明確になるようにして欲しい。
〔施策の区分を説明し、具体的意見等いただきたいと事務局回答〕
- 防犯については「23. 交通安全・防犯」だけでなく「18. 生活環境」の中でも触れられないか。他

の施策についても、読んでいて「あれはないのか。」と思うことがないよう、複数の施策に共通する内容は両方に書いておく方が良いと思う。

[適切な表現ができるか検討したいと事務局回答]

- 行政コストのスリム化や未来への投資ということを考える上でインフラの取り扱いがとても重要で、そこに欠かせない視点が地球温暖化だと思う。経済行為に様々な影響を与える気象条件の変化に対し世界が対応にあたっている中で、低炭素都市や最もCO₂を排出する交通体系に関する内容がここに入っていないと根本的な解決は難しい。つけ加えるならば、個々の家庭が“どう生活していくのか”という価値観を考え直さなければみなが安心して住めるまちが成立し得ない。だから地球温暖化対策という施策があるはずで、CO₂の問題と生活環境がどうリンクしていくかが見えてこないといけない。今後10年間の計画なので、少し前に経産省がやっていたような太陽光パネルの設置やエコ活動の推進といった従来型ではない取組を考えて欲しい。

[環境基本計画の方向性を確認し検討すると事務局回答]

- 歩いて暮らせるまちづくり、中心部の空洞化対策といった面でもとても重要な施策となる。中条駅西口もそこに絡んでくるのではないかと考えていたのだがいかがか。
- 公共交通について、現在の施策内容は市民を対象としたものとなっているが、観光を含め外から来た人が移動しやすくなる方策が考えられないか。また、既存のタクシー会社と競合するのでこの場で決められる話ではないが、コストだけが課題であれば、規制緩和によりUberのようなものを入れて民間に参入してもらいやり方もあるがいかがか。

[「のれんす号」の可能性について検討を続けていきたいと事務局回答]

- 防災・減災について、海側では防風林となる松が枯れてしまったため風や砂による被害が出ていると聞いたので、これをどうするかも記述するべきではないか。

[度の施策に盛り込むべきか等を含めて検討したいと事務局回答]

- 施策③について、ここだけ方法論のような内容で他と書き方が異なるような気がするのだがなぜか。ここだけ具体的にやり方を書くというのは何か大きな課題があるのだろうか。
- 「SNS」と言い切ってしまうとデジタルデバイドの問題があるので表現を再考した方が良いのではないか。
- 課題、役割分担の中に「効率的」「迅速」といった言葉が多く出てくるが、具体的に施策のどこが対応しているのか。今後は少ない人数でより効率的に業務を回さなければいけない状況が予想されるため、とても重要な視点であり確認しておきたい。

[最も関連が大きいのは「①行政評価と業務内容の改善」である。後は、市民の暮らしが一市町村で完結しない状況の中では、近隣の市町村との連携や共有化を進める「③広域連携の強化」も今後10年の課題であると事務局回答]

- 計画を策定した後、民間では行程を組んで実行に移していくことになるが、行政でも誰がどのように実行するのか、複数課にまたがるものは誰がリードしていくのか、あるいは行程表等も作成するのか。そういう部分も盛り込むべきではないか。

[行政評価との連動等による対応を検討したいと事務局回答]

- 新潟市の財政健全化に向けたアクションプランのように、どの部署がどうするのかをまとめるなどあるべき姿に近づけるアルゴリズムをつくるようお願いしたい。